

具体的な取組

- 生徒の学力向上のために、主体的、対話的で深い学びに繋がる授業法改善に向け、先進校への視察と伝達研修、授業指導力向上のための研修を充実させる。
- 総合的な学習の時間の取組を通して、地域に学び、地域を理解し、地域の人達と共に活動し、環境についての理解を深めて行動できる学習カリキュラムの策定。
- 学習課題（目標・めあて）とまとめ（ふりかえり）をねじれなく対応させ、板書や発問の工夫とノートづくりに繋げる。
- 週末課題を設定し、家庭学習の習慣を定着させ基礎学力向上を目指す。
- 定期テストや学習確認プログラムを有効活用し、その取組を通して達成感や更なる学習意欲を生徒にもたせる。学力向上委員会(年4回)では主に学習確認プログラムや全国学力学習状況調査についての分析をおこない、次の手立てを話し合う。
- 教育的力量を高め合う内容の校内研修を計画的に実施する。また教科会を適宜開催し（月1回程度）、学力向上を目的とした授業改善を進め、教科としての取組みや生徒への手立て等の話合いをもつ。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 教科会における協議
- 定期テスト学習確認プログラムや週末課題の分析
- 学校評価アンケート（生徒・保護者）
 - *小中／1. 授業や家庭学習など、自らすすんで学ぶことができますか。
 - *小中／2. 人の話をよく聞いたり、自分の考えや思いを相手に伝えたりすることができますか。
 - * 中学／1. 教科の授業を大切にしている。
 - * 中学／2. 教科の授業はわかりやすい。
 - * 中学／3. 定期テストや学習確認プログラムに、きちんと準備をして臨んだ。
- 授業参観、学級懇談会、個人懇談の際の保護者の意見

中間評価

各種指標結果

- 教科会における協議
夏期校内研修における、教科別研修（ポータルサイト動画を活用して）で“主体的に学習に取り組む態度”の見取りについて協議を行った。今後、試験実施等を検討している。
- ジョイントプログラム・学習確認プログラムの分析
中学1年生の課題・結果
 - ◆国語：説明的文章の読解
 - ◆算数：速さ、割合・比、場合の数 ※全市との比較データ無し
 - ◆アンケート：予習シート・復習シートの活用時間が短い
平日の家庭学習時間が短い
思いやりのある生徒が多い（人の気持ちがわかる人間になりたい）
進路に関する関心が高い（将来になりたい職業がある）
- 中学2年生の課題・結果
 - ◆総合(-2.6) 国語(-3.3) 社会(-0.4) 数学(-4.7) 理科(+1.2) 英語(-6.8)
- 中学3年生の課題・結果
 - ◆総合(+2.4) 国語(+0.7) 社会(+2.5) 数学(+4.3) 理科(+4.3) 英語(+0.7)
- 授業参観、個人懇談の際の保護者の意見。（11月、12月にそれぞれ計画済み）

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新学習指導要領を見据えた研修会を行い、趣旨や教科ごとの評価の在り方について共通理解することができた。 ○基礎学力の定着と学力向上を図るため学習確認プログラムの分析データを活用した週末課題の設定や、授業設計の工夫を促すことができた。 ○コロナ禍における教科指導の進捗や見通しを共有し、滞りなく進めることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新学習指導要領の評価の在り方に迫ること。 ○基礎学力の定着と学力向上を図るため学習確認プログラムや定期テストの分析データを活用した教科会を充実させ、指導改善を図る。 ○特別の教科道徳、総合的な学習の時間における特色ある学習の展開を策定。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>生徒の学力向上、自己表現力向上のために、主体的、対話的で深い学びに繋がる授業法改善に向け、授業指導力向上のための研修を充実させる。 <input type="checkbox"/>教育的力量を高め合う内容の校内研修として管外出張の伝達研修を行い自校の研究に活用する。 <input type="checkbox"/>総合的な学習の時間の取組を通して、地域に学び、地域を理解し、地域の人達と共に活動し、環境についての理解を深めて行動できる学習カリキュラムの策定。 <input type="checkbox"/>定期テストや学習確認プログラムを有効活用し、その取り組みを通して達成感や更なる学習意欲を生徒にもたせる。学力向上委員会（年4回）では主に学習確認プログラムや全国学力学習状況調査についての分析をおこない、次の手立てを話し合う。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <p><学校評価アンケート（生徒・保護者）></p> <ul style="list-style-type: none"> *小中／1. 授業や家庭学習など、自らすすんで学ぶことができていますか。 *小中／2. 人の話をよく聞いたり、自分の考えや思いを相手に伝えたりする事ができていますか。 *中学／1. 教科の授業を大切にしている。 *中学／2. 教科の授業はわかりやすい。 *中学／3. 定期テストや学習確認プログラムに、きちんと準備をして臨んだ。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>「深い学び」について、生徒にいかに自主的に学習させるかが大切である。 <input type="checkbox"/>対話的な場面で参加できない生徒に対しての問いかけをどうするのか。 <input type="checkbox"/>今回の「道徳授業の参観」は参考になった。 <input type="checkbox"/>家庭学習の取り組み方について、学校運営協議会もできる限りの支援を行う。 <input type="checkbox"/>地域の担い手の育成に向け、地域も育てていかなければならない。

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

＜学校評価アンケート（生徒・保護者）＞（肯定的な回答／否定的な回答）

*小中／1. 授業や家庭学習など、自らすすんで学ぶことができますか。(68.6%/31.4%)

*小中／2. 人の話をよく聞いたり、自分の考えや思いを相手に伝えたりする事ができていますか。(84.4%/15.6%)

*中学／1. 教科の授業を大切にしている。(89.0%/11.0%)

*中学／2. 教科の授業はわかりやすい。(86.5%/13.5%)

*中学／3. 定期テストや学習確認プログラムに、きちんと準備をして臨んだ。(72.4%/27.6%)

⇒アンケートの結果から、授業を大切にしようという思いや、授業はわかりやすいという思いを持っている生徒が多いことが分かる。一方で、保護者のアンケートでは同質問の回答が低い結果となっているため、保護者は授業での様子、定期テストなどの学習成績に満足していないと考えられる。

＜学習確認プログラムの分析＞

◆中学1年生の課題・結果 ～前回に比べると事前事後の学習を充実させ定着を図ることができた。～
総合(-1.4)国語(-3.0)社会(-2.8)数学(-3.4)理科(+2.2)英語(+0.5)

◆中学2年生の課題・結果 ～教科により差があるため、具体的な対策を講じる必要がある。～
総合(-3.9)国語(-1.2)社会(-1.7)数学(-7.4)理科(-3.5)英語(-5.7)

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

＜成果＞

○新学習指導要領に関する研修会を2回行い、具体的なワークシートを活用しながら共通理解を図った。また、教科会で授業開き資料(統一プリント)を制作するなど準備を進めることができた。

○基礎学力の定着と学力向上を図るため学習確認プログラムの分析データを活用した週末課題の設定や、授業設計の工夫を促すことができた。

○GIGA スクールに関する伝達研修を2回行い、研修内で全教職員がタブレット端末を使用することができた。教科や単元の特性に合わせて、授業内で積極的な活用が行われ始めたところである。また、年度内に検討すること、年度初めに確認することを整理し新年度、スムーズに活用できるよう準備を進めている。

＜課題＞

○評価に関する授業開き資料(統一プリント)の作成や教科ごとの検討、全体共有を進める。

○基礎学力の定着と学力向上を図るため学習確認プログラムや定期テストの分析データを活用した、指導改善や課題の設定について教科会で話題に挙げられるようなシステムを作る。

○若手教員を対象とした研修（生徒指導・成績処理など）を充実させる。

分析を踏まえた取組の改善

□生徒の学力向上、自己表現力向上のために、主体的、対話的で深い学びに繋がる授業法改善に向け、授業指導力向上のための研修（3観点の評価・深い学びにつながる協働学習）を充実させる。

□教育的力量を高め合う内容の校内研修として管外出張の伝達研修を行い自校の研究に活用する。

□総合的な学習の時間の取組を通して、SDGsの視点を軸とした学習カリキュラムの策定。

□定期テストや学習確認プログラムを有効活用し、その取り組みを通して達成感や更なる学習意欲を生徒にもたせる。

	<input type="checkbox"/> 学力向上委員会(年4回)では主に学習確認プログラムや全国学力学習状況調査についての分析をおこない、次の手立てを話し合う。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <input type="checkbox"/> 生徒同士の教え合い学習の推進と、小中連携を行い学力向上につながるよう取組みをして欲しい。 <input type="checkbox"/> 家庭学習の必要性を感じた。家庭学習の定着をはかるため保護者と連携をおこなう。 <input type="checkbox"/> 地域の人材や学生ボランティアの活用をすすめる。

(2)「豊かな心」の育成に向けて

教科学習はもとより、道徳教育や人権教育、各種行事における体験等を通じて、自然や生命を尊び、人を思いやる心、美しいものに感動する豊かな感性を培うとともに、何事にも粘り強く挑戦し、くじけない強い精神力を養うことを目標とする。また、よりよく生きようとする姿勢を学び、実践しようとする中で、自尊感情・自己有用感を育むことを狙いとする。

具体的な取組

すべての学校活動において「自ら気づき、考え、表現し、聴く活動」を実践すること。また、特に表現する場面では多様な表現方法を体現することとする。

道徳教育を研究活動の中心に据え、教科の授業の改善にもつなげる。

*休日参観において【1年生】学年道徳 【2年生】ふれあいドートク 【3年生】学級道徳を保護者・地域参加型のものとして公開

*道徳の公開授業を実施（公開授業は全校道徳の形態で実施する）

*校内行事とリンクした縦割りの全校道徳を実施

*学級道徳だけでなく、学年道徳・全校道徳を状況や時期に応じて企画

*持ち回り道徳の実施

*評価の有効実践

花山スタイルの人権学習をすすめる。

*各学年とも外国人教育を年間で1回は取り上げ、あとの1回は独自の人権課題を取り上げる外国人教育を中心としたカリキュラムの充実

各種行事や部活動を通して、感動する体験を意図的に設定する。

*菜園活動での縦割りの取組

*学校祭（文化の部・体育の部・合唱コンクール）を通じての協同活動

*自分を大切にできることプラス他者への思いやりを育てる活動

(取組結果を検証する) 各種指標

道徳教育を研究活動の中心に据え、教科の授業の改善の中で取組みを検討する。

自尊感情・自己有用感を育むことなどについて、学校評価をもとに検証する。

<具体的項目>

あいさつができるなど学校や社会のルール、マナーを守っている・仲間を大切にし、他者を思いやる行動がとれている・自分を大切にでき自分を誇れる生き方ができている。

中間評価

<p>各種指標結果</p> <p><input type="checkbox"/> 道徳教育を研究活動の中心に据え、教科の授業の改善の中で取り組みを検討する。 → 引き続き教科の授業の改善の中で取り組みを検討していく。</p> <p><input type="checkbox"/> 自尊感情・自己有用感を育むことなどについて、学校評価をもとに検証する。 → 今後、学校評価アンケートをとり、自尊感情・自己有用感を育む一助となっているか検証する。</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>今年度は、教育現場においてさまざまな制限があり、道徳教育を研究活動の中心に据えた例年と同じような教育活動・研究活動はなかなか行いにくい状況にある。そのような中でも「自ら気づき、考え、表現し、聴く活動」の実践を意識し、道徳の授業のみならず、教科の授業の改善にもつなげられるよう学習を進めている。しかし、顕著な成果はまだ見られないため、引き続き取組を行う。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>「自ら気づき、考え、表現し、聴く活動」の実践をより意識して、表現する場面を意図的に多く設け、多様な表現方法を体現できるよう取組を改善する。</p>
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <p><input type="checkbox"/> 道徳教育を研究活動の中心に据え、教科の授業の改善の中で取り組みを検討する。 <input type="checkbox"/> 自尊感情・自己有用感を育むことなどについて、学校評価をもとに検証する。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p><input type="checkbox"/> 地域、保護者、PTAが協力し、「地域の力」（学校とともに地域の子どもは地域が育てる）で生徒の育成に努める。 <input type="checkbox"/> 支援を要する生徒や不登校生徒への対応や学活や道徳の取組を取り入れていく必要がある。 <input type="checkbox"/> 各種行事や部活動を通して感動する体験や講演を設ける。 <input type="checkbox"/> 生徒が主体的な学ぼうとする中で「深い学び」を意識づけていく必要がある。</p>

最終評価

<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <p><input type="checkbox"/> 道徳教育を研究活動の中心に据え、教科の授業の改善の中で取り組みを検討する → 今後も、引き続き教科の授業の改善の中で取り組みを検討していく。</p> <p><input type="checkbox"/> 自尊感情・自己有用感を育むことなどについて、学校評価をもとに検証する。 → 学校評価アンケートを通して、道徳教育が自尊感情・自己有用感を育む一助となっているかは今後も検証が必要である。</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>今年度は、教育現場においてさまざまな制限があり、道徳教育を研究活動の中心に据えた例年と同じような教育活動・研究活動はなかなか行いにくい状況にあった。そのような中でも「自ら気づき、考え、表現し、聴く活動」の実践を意識し、道徳の授業のみならず、教科の授業の改善にもつなげられるよう学習を進めてきた。来年度以降も、自尊感情・自己有用感を育む取組を継続していきたい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>「自ら気づき、考え、表現し、聴く活動」の実践をより意識して、表現する場面を意図的に多く設け、多様な表現方法を体現できるよう取組を改善する。</p>

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<input type="checkbox"/> 地域、保護者、PTAが協力し、「地域の力」（学校とともに地域の子どもは地域が育てる）で生徒の育成に努める。
	<input type="checkbox"/> 支援を要する生徒や不登校生徒への対応や学活や道徳の取組を取り入れていく必要がある。
	<input type="checkbox"/> 各種行事や部活動を通して感動する体験や講演を設ける。
	<input type="checkbox"/> 生徒が主体的な学ぼうとする中で「深い学び」を意識づけていく必要がある。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標
体育の授業による基礎体力づくりや部活動による心身の鍛錬を通じて、健やかな体を育む。また、心の健康にも気を向けさせるよう意識して取り組みを工夫する。
具体的な取組
<input type="checkbox"/> 保健体育の学習 * 体育の授業を通じて、体力と運動能力の向上を目指して取り組むと共に、保健の学習を通じて、心身の健康に向けた理解を深める。
<input type="checkbox"/> 部活動 * 運動部活動において、心身を鍛えることの意義と喜びを感じさせる。また、健康と体力の保持増進のために食と休養（睡眠）の質が大切であること、そして事故を起こさない安全の大切さを理解させ、実践させる。また、文化系の部活動においても心身、特に心の健康について理解を深めさせると共に実践させる。 * 毎週水曜日を週休日とし、部活動を運営する。
<input type="checkbox"/> 不登校生徒へのきめ細かい指導 これまで不登校傾向にある生徒に対しては、特にきめ細かい心の通った指導を心掛けている。個々に応じた適切な指導や対応を心がけ、画一的なものにならないよう特に配慮していく。また生徒だけでなく、保護者の気持ちに寄り添った指導を実現させていく。
(取組結果を検証する) 各種指標
<input type="checkbox"/> クラスマネージメントシートや生活アンケート等を活用し、生徒の実態分析ときめ細かい心の通った指導について、職員会議や研修等で検証する。
<input type="checkbox"/> 体力や運動能力の向上と心身の健康に向け、学習・部活動において各部会を通じ共通理解と取り組みの検討を行う。
【具体的項目】 部活動などの課外活動に一生懸命取り組んでいる・運動や読書、DVD鑑賞などストレスをため込まない術がある・早寝、早起き、朝ご飯など自分の健康管理に努めている。

中間評価

各種指標結果
<input type="checkbox"/> 部活動など課外活動（学校外での活動を含む）に一生懸命に取り組んでいる。 令和元年度 91% ⇒ 令和2年度 90%
<input type="checkbox"/> 運動や読書、DVD鑑賞など、ストレスをため込まない術がある。 令和元年度 81% ⇒ 令和2年度 83%
<input type="checkbox"/> 「早寝・早起き・朝ごはん」など、自分の健康管理に努めている。 令和元年度 77% ⇒ 令和2年度 80%

自己評価	分析（成果と課題） <input type="checkbox"/> 生活面での大きな乱れは見られないが、全体的に睡眠時間が短いといった現状がある。 <input type="checkbox"/> 健康教育のさらなる充実が必要である。 <input type="checkbox"/> 日々の生活習慣だけでなく飲酒・喫煙・薬物乱用の有害性、携帯電話についての危険性やルール、正しい知識の定着、危険な行為から身を守る指導にも取り組んでいかなければならない。
	分析を踏まえた取組の改善 <input type="checkbox"/> 基本的な生活習慣の定着に向けて、家庭との連携や協力を強めていく。 <input type="checkbox"/> 睡眠時間の確保のため、基本的な生活習慣の定着に向けて、家庭との連携や協力を強めていく。 <input type="checkbox"/> 健康教育の充実に向け、学校・家庭・地域が連携し、子供たちの健全育成に関する取組を推進
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 <input type="checkbox"/> 生徒や保護者の気持ちに寄り添った指導ができています。 <input type="checkbox"/> クラスマネージメントの活用 <input type="checkbox"/> 生徒アンケートの分析
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <input type="checkbox"/> 今の子どもたちの人間関係は情報ツールが多様化し人間関係に気をつけなければいけない。 <input type="checkbox"/> 不登校生徒への関わりを充実させる。 <input type="checkbox"/> 環境の変化による食生活の在り方が時代とともに変わってきており心配である。 <input type="checkbox"/> 違法薬物の乱用の低年齢化が心配である。今の時代はSNSなどを使って簡単に手に入ることから、地域や家庭での教育力や啓発活動、関係機関との連携が大事である。

最終評価

	（中間評価時に設定した）各種指標結果 <input type="radio"/> 部活動など課外活動（学校外での活動を含む）に一生懸命に取り組んでいる。 平成31年度 89% ※保護者88% ⇒ 令和2年度 87% ※保護者 89% <input type="radio"/> 運動や読書、DVD鑑賞など、ストレスをため込まない術がある。 平成31年度 86% ※保護者89% ⇒ 令和2年度 81% ※保護者 89% <input type="radio"/> 「早寝・早起き・朝ごはん」など、自分の健康管理に努めている。 平成31年度 75% ※保護者72% ⇒ 令和2年度 74% ※保護者 70% ・今年度も部活動に参加している生徒が、積極的に取り組んでいることが現れた。今後、花山ブロック学校運営協議会とも連携して、部活動休養日などを過ごし方（地域での過ごし方）を検討していきたい。 ・保健室来室人数は9月から増加傾向にあり、夏休み明けの熱い時期や生活習慣の乱れやすい時期に増えた。また、家庭でのトラブルや家出の出来事を聞いてもらいたいといったケースがあった。今後は、保護者も含めたケアや導などきめ細かな対応が必要である。
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 <input type="radio"/> 部活動休養日を水曜日にする取り組みを継続する。 <input type="radio"/> 小中連携を通じ基本的な生活習慣に関する指導を、家庭訪問や参観で行う。 <input type="radio"/> 帰宅してから就寝するまでの時間の使い方と、その時間内に学習時間をどう組み込むかを学年に応じて指導する必要がある。
	分析を踏まえた取組の改善 <input type="radio"/> 部活動休養日を水曜日に固定する取組を継続する。 <input type="radio"/> 規則正しい生活のリズムを作る一助として、学校での点検活動を定期的におこなう。

	<p>○課題のある生徒に基本的な生活習慣に関する指導を、保護者を交えて家庭訪問や懇談会で行う。</p> <p>○帰宅後の時間の使い方を、学習指導部と連携し各クラスで実施する。</p> <p>○心身を鍛えるとともに、基本的な生活習慣を定着させ、日々の健康安全を守る取組を推進する。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>○全般的には目標達成はできている。</p> <p>○保護者と生活習慣を定着させ、日々の健康安全を守る取組を推進する。</p> <p>○地域や保護者も含めた働きかけが必要である。</p> <p>○基本的な生活習慣を身につけて健康な生活を送るためには、家庭の果たす役割が大きい。生徒への指導だけでなく保護者への啓発指導が大切である。</p>

(4) 学校独自の取組

<p>重点目標</p> <p>地域に支えられた小中学校として、現在並びに未来にかけて地域に貢献できる人材育成という視点を大前提として、「自ら学び未来を切り拓く自律心あふれる心身ともに健康な子どもの育成」 ～家庭・地域の想いととともに～</p>
<p>具体的な取組</p> <p><input type="checkbox"/>正しい知識と判断力とをもち、話し合いや行動ができる人。 * 学びのルールを身につける②自学自習の習慣を身につける③読解力を身につける</p> <p><input type="checkbox"/>相手意識をもち、自分の考えや意思を伝えられ、将来の自分を見据えて努力できる人。 * 相手の立場に立って考え、行動できる②いじめを許さない。</p> <p><input type="checkbox"/>「夢」と「目標」実現させるため心身の健康の保持と増進に努められる人。 * ①基本的な生活習慣を身につける②規範意識を身につける③主体的に運動やスポーツを楽しむことができる④飲酒、喫煙、薬物の危険性について正しい知識を身につける。</p>
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p><input type="checkbox"/>小中統一学校評価を実施し取り組みについて分析を行う。</p> <p><input type="checkbox"/>3校合同研修会(総会)を実施し研修会での検証を行う。</p> <p>具体的項目 小中統一評価項目6点</p>

中間評価

<p>各種指標結果</p> <p><input type="checkbox"/>学校行事に楽しく参加した。 令和元年度 90%⇒ 令和2年度 90%</p> <p><input type="checkbox"/>学校には楽しく来ることができている。 令和元年度 89%⇒ 令和2年度 91%</p> <p><input type="checkbox"/>花山中学校の教職員は、生徒のことを大切にしている。 令和元年度 95%⇒ 令和2年度 94%</p>
<p>自己評価</p> <p>分析(成果と課題)</p> <p><input type="checkbox"/>学校行事が減少したが、頑張っている姿が見受けられた。</p> <p><input type="checkbox"/>きめの細かい「心に寄り添った指導」が日々の学校生活で行えた。</p> <p><input type="checkbox"/>話し合い活動を通じて「自主的な活動」を身につけることができた。</p>
<p>分析を踏まえた取組の改善</p>

	<input type="checkbox"/> 地域への関心を高めるとともに、地域に誇りをもち、次代の担い手としての自覚につながるような活動を行う。 <input type="checkbox"/> さらに、学校評価をもとに、自尊感情・自己有用感を育みを意識した活動をおこなう。 <input type="checkbox"/> 開かれた学校として学校公開・学年便り・学級通信・学校 HP 等での学校の様子を発信する。 <input type="checkbox"/> 小中連携における持続可能な9年間の学びの構築を図る。
	<u>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</u> <input type="checkbox"/> HP 等から開かれた学校の様子が見受けられている。 <input type="checkbox"/> 小中統一学校評価を実施し取り組みについて分析を行う。 <input type="checkbox"/> 小中統一評価項目での生徒・保護者アンケートを実施する。
学校関係者評価	<u>学校関係者による意見・支援策</u> <input type="checkbox"/> 小中学校が連携して取り組んでいる成果が出ている。 <input type="checkbox"/> 学校運営協議会（コネプロ協議会）をより充実させ、地域の会合で広報する。 <input type="checkbox"/> 学年だよりやHPで、学校の様子がよく発信されている。

最終評価

	<u>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</u> 『学校評価アンケート』小中一貫の項目（「よくできている」「だいたいできている」と答えた割合） <p style="text-align: right;">(太字…前回比 UP)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">鏡山小</th> <th style="text-align: center;">陵ヶ岡小</th> <th style="text-align: center;">花山中</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「自ら進んで学ぶ」……………</td> <td style="text-align: center;">78%</td> <td style="text-align: center;">80%</td> <td style="text-align: center;">69%</td> </tr> <tr> <td>「話を聴き、思いを伝える」……………</td> <td style="text-align: center;">77%</td> <td style="text-align: center;">82%</td> <td style="text-align: center;">85%</td> </tr> <tr> <td>「周囲の人を大切にすること」……………</td> <td style="text-align: center;">98%</td> <td style="text-align: center;">97%</td> <td style="text-align: center;">98%</td> </tr> <tr> <td>「自分からあいさつ・感謝の言葉を言う」…</td> <td style="text-align: center;">88%</td> <td style="text-align: center;">92%</td> <td style="text-align: center;">95%</td> </tr> <tr> <td>「自分から進んで運動をする」……………</td> <td style="text-align: center;">73%</td> <td style="text-align: center;">81%</td> <td style="text-align: center;">65%</td> </tr> <tr> <td>「規則正しい生活習慣への努力」……………</td> <td style="text-align: center;">76%</td> <td style="text-align: center;">72%</td> <td style="text-align: center;">76%</td> </tr> </tbody> </table>		鏡山小	陵ヶ岡小	花山中	「自ら進んで学ぶ」……………	78%	80%	69%	「話を聴き、思いを伝える」……………	77%	82%	85%	「周囲の人を大切にすること」……………	98%	97%	98%	「自分からあいさつ・感謝の言葉を言う」…	88%	92%	95%	「自分から進んで運動をする」……………	73%	81%	65%	「規則正しい生活習慣への努力」……………	76%	72%	76%
	鏡山小	陵ヶ岡小	花山中																										
「自ら進んで学ぶ」……………	78%	80%	69%																										
「話を聴き、思いを伝える」……………	77%	82%	85%																										
「周囲の人を大切にすること」……………	98%	97%	98%																										
「自分からあいさつ・感謝の言葉を言う」…	88%	92%	95%																										
「自分から進んで運動をする」……………	73%	81%	65%																										
「規則正しい生活習慣への努力」……………	76%	72%	76%																										
自己評価	<u>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</u> ○<取組> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりの交流が習慣化した。 ・新学習指導要領の改訂を迎え、3校研究主任・教務主任で評価についての共有をした。 ・各校の研究授業等を必要最低限の回数・人数でお互いが見合い、教員間交流を図れた。 ・数少なかった小中連携の取組を、学校だよりや学校ホームページに積極的に載せることで、保護者や地域に情報発信できた。 <アンケート> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の人を大切にするという相手意識・人権意識のある行動の数値が3校とも上がっている。 ・中学校の数値が比較的高く、義務教育9年間の出口の姿として生徒が育っている。 △<取組> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で小中合同研修が実施できず、指導の方向性を共有できなかった。 ・各主任間での交流・情報共有もなかなかできなかった。 ・小中連携で中学校に配置された英語教員が年度途中で辞職されたため、上手く生かせなかった。 																												

	<p><アンケート></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで学ぶ、項目が3校とも下がっており、学習に主体性に向かう力に課題が見られる。 ・規則正しい生活習慣への努力の項目が3校とも下がり、生活習慣の乱れが気にかかる。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力や学校評価の結果を共有し、義務教育9か年を見据えた指導を心がけていきたい。 ・「小中一貫教育の推進」には、3校の教職員レベルの交流だけでなく、児童生徒・保護者・地域が共通理解をして取組を進めることが大切であり、来年度もコロナ対応が続くが、できる形で「交流・対話」を大切にしていきたい。 ・「進んで学ぶこと」や「生活習慣」には課題が見られ、改善に向けて各校の主任レベルで方向性を話し合うなど、3校が連携して取り組んでいきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学校ブロックでの小中一貫教育のさらなる推進を期待されておられる。 ○来年度も、管理職・主任間で情報の共有を行う。

(5) 教職員の働き方改革について

重点目標	
教職員一人一人が勤務時間を意識し、子どもと向き合う時間を十分に確保する。	
具体的な取組	
<input type="checkbox"/> 学校行事を精選する。 <input type="checkbox"/> 会議を精選，効率化する。 <input type="checkbox"/> 電話応対時間を午後7時00分までとし，以降は留守番電話に切り替える。 <input type="checkbox"/> 働き方改革に関する研修を行う。	
(取組結果を検証する) 各種指標	
<input type="checkbox"/> 教職員の勤務時間 <input type="checkbox"/> 年休取得率	

中間評価

各種指標結果	
<input type="checkbox"/> 教職員の超過勤務時間は減少したが、よりスケジュール管理の徹底を行いたい。 <input type="checkbox"/> ストレスチェック表を積極的に提出させ分析を行う。	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> □昨年度に比べ、教職員全体が効率よく業務をこなすことにより、時間外勤務がより減少した。 □会議等において働き方改革についての意義を伝えることによって計画や目標を持って業務に当たることができた。 □学校行事や定期考査前などについては、超過勤務がみられ改善が必要である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> □情報やデータの共有を図り、業務の簡略化を目指す。 □生徒指導事案における対応を削減するため、日頃から「寄り添った指導」・「きめ細かい生徒や保護者との関係づくり」をすすめる。

	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p><input type="checkbox"/>各学年ボード等使い，退勤時間や仕事の優先順位がわかるようにする。</p> <p><input type="checkbox"/>月末に効果的な業務であったかを確認する。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p><input type="checkbox"/>地域の子供は地域で育てるのが重要である。そのためにも，効果的に地域人材を活用の協力を得た。</p> <p><input type="checkbox"/>地域の協力と学校での「勤務時間」を意識した働き方の意識付けが大切である。</p>

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p><input type="radio"/>システムの運用について定着できた。</p> <p><input type="radio"/>時間外勤務状況も昨年度と比較すると，大幅に勤務時間が減少した。</p> <p><input type="radio"/>今後は，スケジュール管理と優先順位の見直しが必要である。</p> <p><input type="radio"/>コロナ禍の中，より部活動ガイドラインの順守が大切である。</p> <p><input type="radio"/>勤務時間削減に向け，休暇を積極的に取得できる職場環境が整った。</p>
自己評価	<p>分析 (成果と課題)，重点目標の達成状況，次年度の課題</p> <p><input type="radio"/>今年度は，コロナ消毒・生徒指導対応に費やす時間が増加した。</p> <p><input type="radio"/>今後，部活動導指導員・校務支援員・学び支援員などを有効活用する。</p> <p><input type="radio"/>スケジュール管理と優先順位の見直しを，研修会を通じておこなう。</p> <p><input type="radio"/>勤務時間削減に向け，情報の共有と GIGA スクールの端末の活用を校内でより充実させる。</p> <p><input type="radio"/>次年度に向け，教科会を充実させ，ネット・タブレットの活用によって，業務の効率化を図る。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p><input type="radio"/>情報の共有と GIGA スクールの端末の活用を校内でより充実させる。</p> <p><input type="radio"/>各学年ボード等使い，退勤時間や仕事の優先順位がわかるようにする。</p> <p><input type="radio"/>部活動導指導員・校務支援員・学び支援員などを有効活用し業務の効率化を図る。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p><input type="radio"/>教職員の時間外勤務について，花山ブロック学校運営協議会の理解と協力を得る。</p> <p><input type="radio"/>働き方改革については，進んでいることが理解できた。</p> <p><input type="radio"/>この現状を理解し保護者や地域に伝える。また，地域の人材の活用に協力する。</p>